

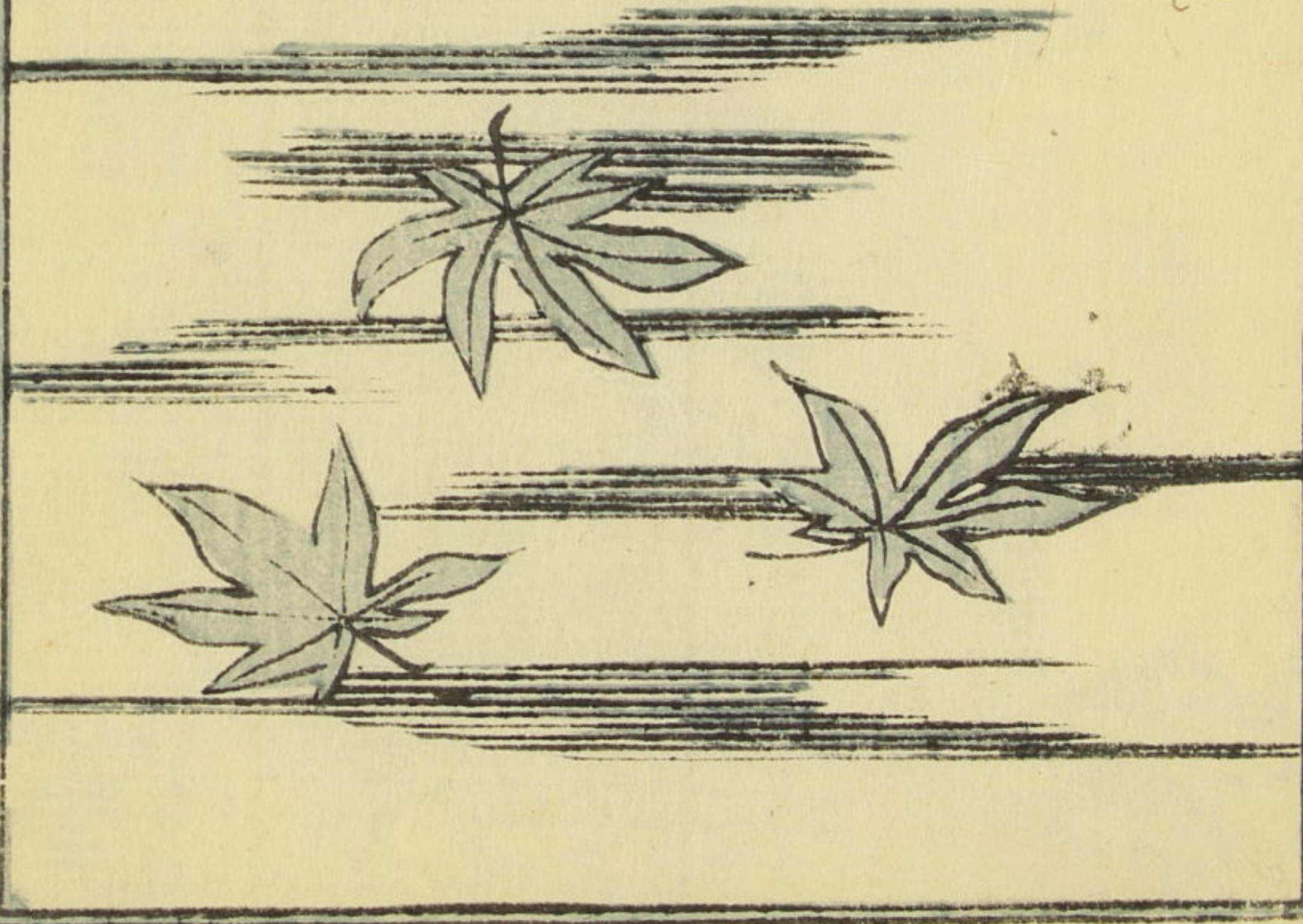
~ 13  
3706  
41



門へ13  
 號3706  
 卷41

為於此の  
 外傳保良志  
 日記

うらやまの  
 うらやまの  
 うらやまの



利を好む者小の財珍を與えてこま成迷り色と好む者小の美女を與えて  
 これ成惑のたとふ君子も道をもてせ欺くも夏も何んを況て小人ある者  
 をや既小本編小著も處の鴉埜黒平が哄誘さきて右傳父子成計の一段  
 淫慾利欲と離る夏なり原より右傳の小文次たる時犯せる罪は  
 何れも小せし類子水次郎の罪ふくて命を隕し名を汚る佛家子  
 所謂宿業の塵莫渠小も又罪あり多門之助と公然と討得ること乃  
 かくたを知り暗殺做んと志するより終小養父成害ふふいふ實に  
 已不出たもの已に復らざる夏なり何と釋免等合夷軟く

士申春稿成  
 丙子冬發文

為永春水誌る

寶齊備書

刀日巳 十一



女兒淡子  
あいらこ

岩黨  
鴉野黒平  
いわだう  
からのくろへい

楠右傳正鄰  
すげのたけし  
たけし

女  
言  
十一



三十一  
 女  
 日記  
 十一



歌  
 瀧  
 水  
 次  
 郎

女  
 日記  
 十一



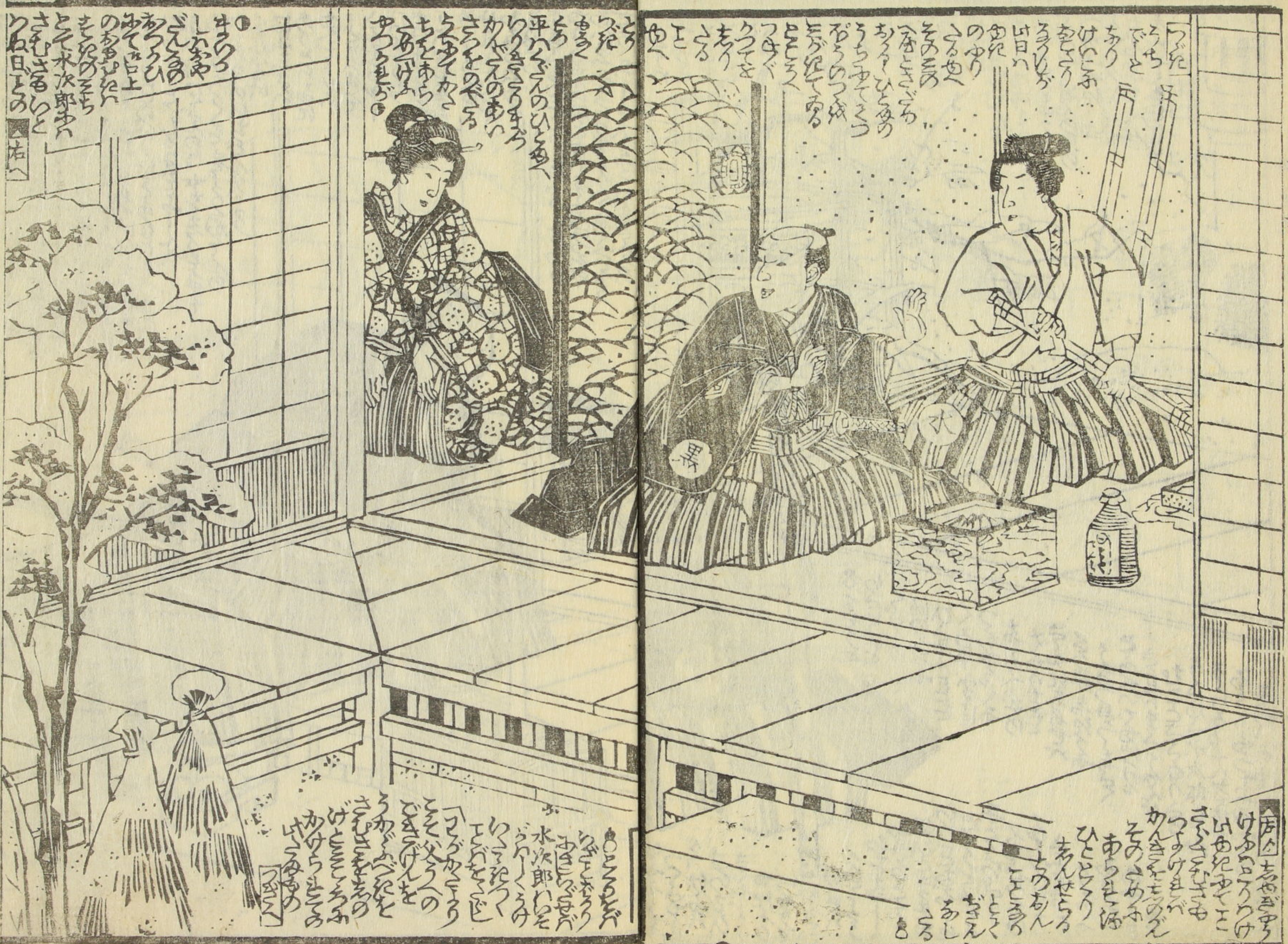












①  
しんあや  
ごんさあ  
あつらひ  
あては上  
のあまは  
さるのま  
とそ水次郎  
さむさる  
りぬ日との

平のこのひ  
りかこのま  
かんのあ  
さるのま  
とそ水次郎  
さむさる  
りぬ日との

あつらひ  
あては上  
のあまは  
さるのま  
とそ水次郎  
さむさる  
りぬ日との

四月廿一日

②  
あつらひ  
あては上  
のあまは  
さるのま  
とそ水次郎  
さむさる  
りぬ日との

あつらひ  
あては上  
のあまは  
さるのま  
とそ水次郎  
さむさる  
りぬ日との



春水作國爰畫



三國爰作

實成散

下葉壹茶神製

卯蔭月朝妻

葵尚編八幅不知

池掃月形

繪團扇開屋



